

蘇我屠自古ば 語らない


◆ 奇の章

Illustration by ml

OFF DRIVE

Toho Project Fan book
Carcharias





蘇我屠自古は語らない ◆ 奇の章

登場人物



とよさとみみのみこ

■豊聡耳皇子(現:豊聡耳神子)

天皇家と蘇我氏の血統、そして卓越した手腕をもって実質的に国を掌握する日出る処の摂政。仏教の先導者であったが、その裏で道教を信仰していた欺瞞の為政者。ただしその超人的な能力は病で失われてしまった。青娥の教えを受け、尸解仙としてこの身を捨て死をも超越した存在になろうと目論む。しかしその過程で図らずも妻の刀自古に残酷な決断を突きつけることとなる。



とじこのいらつめ

■刀自古郎女(現:蘇我屠自古)

蘇我氏の最高権力者である蘇我馬子の娘であり、聖徳太子こと豊聡耳皇子の正妻。また継母に布都姫をもつ。幼少の頃に太子と政略結婚させられたが、夫婦仲は良好……だった。ある日、仏教を崇拝するはずの太子が仙女の青娥から教えを授かっていることを知る。少なからぬ衝撃を受けた刀自古は、布都から太子の過去を聞くこととなったが……。



せいがにゃんにゃん

■青娥娘々

太子と布都の道教の師。その言動ゆえ二人からの信用はないが実力は確か。尸解仙として蘇る計画の中心人物であり、ゆえに二人も青娥に頼らざるをえない。刀自古のまえに執拗に現れ、彼女の心をかき乱しては妖艶に笑う。天衣無縫でとらえどころがなく、青娥の企みは誰も解することができない。



ふとひめ

■布都姫(現:物部布都)

宗教戦争で敗北した物部守屋の妹。没落した物部氏を束ねている。蘇我馬子を夫とし刀自古を娘とするが、それは太子による計略的な関係にすぎなかった。仙人となることを目標とし、太子とともに道教を修行するがその過程で多くのものを失う。血の繋がらぬ娘ながら刀自古を溺愛し、その助けになりたいと願い出た話が裏目の結果に……。

前巻のあらすじ

刀自古郎女は聖徳太子こと豊聡耳皇子の妻。ふたりは若くして結婚し、幸せに暮らしていた。しかしある日、刀自古は太子と布都が異教である道教を信仰し、仙女の青娥を師と仰いでいる事を知る。その事実を正妻ながら全く知らなかったこと、忌むべき蘇我と物部の宗教戦争の首謀者が二人であったこと、そして自らの結婚そのものが太子の計略に過ぎなかったことを知り絶望する刀自古。布都は太子と自分とあと一人が尸解仙になれること、その人物に刀自古をすすめるようとしている事を伝えた。だが己の人生と存在意義を揺るがされた刀自古はせめてもの望みを、太子がみずから自分を選んでくれることに賭ける。その結果、太子は刀自古ではなく、愛妻の膳美郎女『かしわでのみのいらつめ』を選んだ。失意の余り刀自古は布都から奪い取った布都御魂剣で自刃を試みるが――。

!この話に登場する人物は全て幻想入りしています

ひと
ふた
みよ

いつ
なむ
なや

この
たり

ふる
べ

ゆる
らと
ふる
べ

ん……

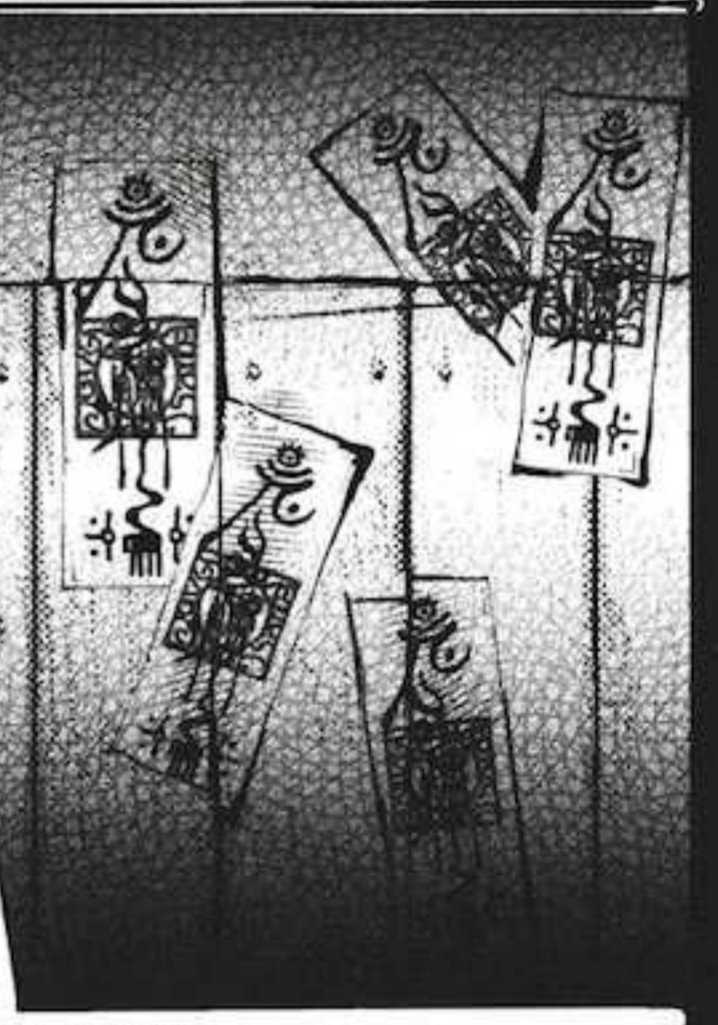
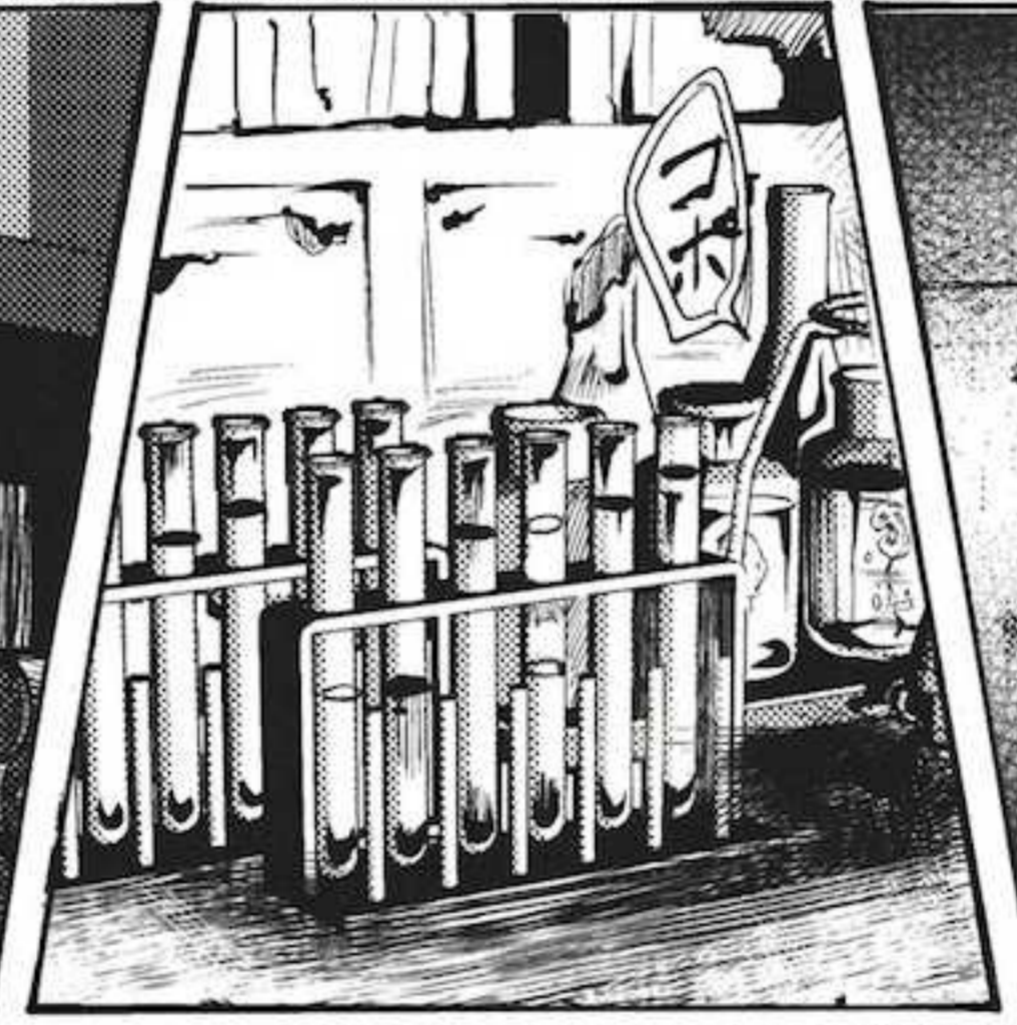




ここは……
一体



カアッ



おはようございます
刀自 古郎 女様

ガッ

こうしてゆっくり
お話をするのは
初めてですわね

私の名前は
霍青娥

太子様と布都姫様の
道教の師でございます

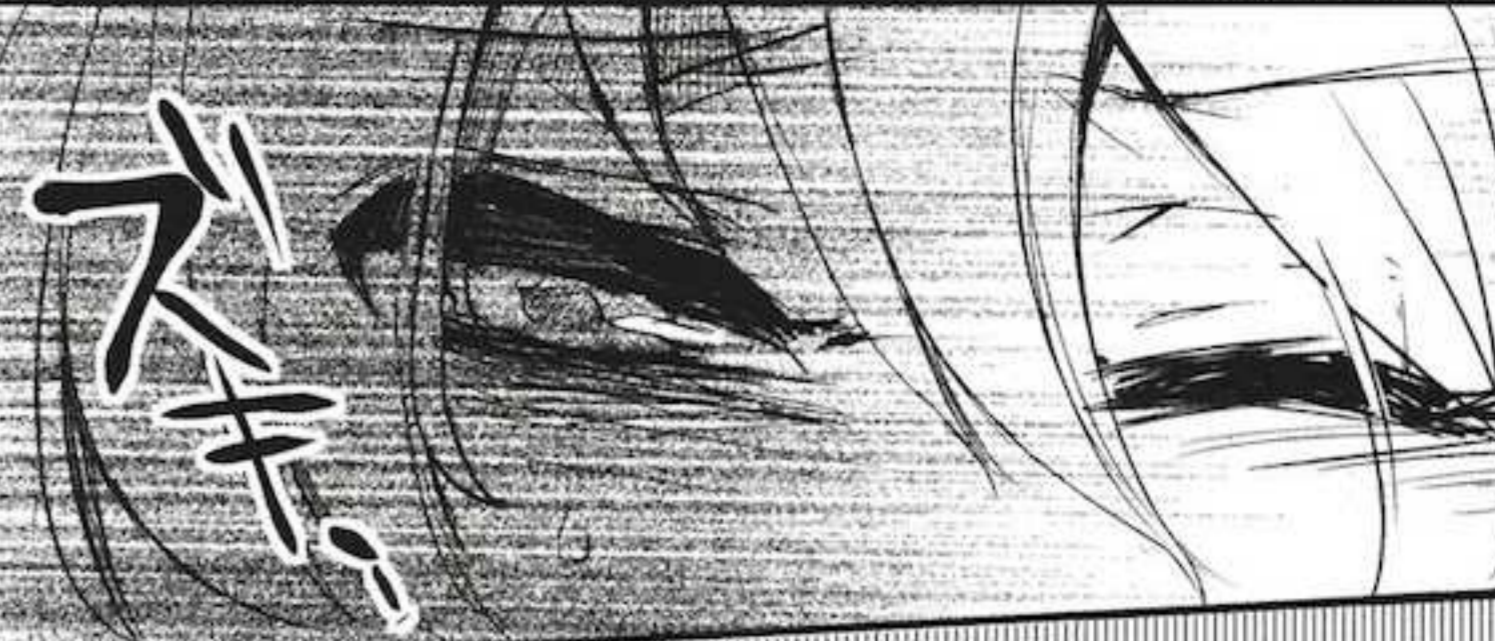
邪仙！

どうして
ここに……

你母

あらあ……？
まだ傷が塞がって
いないのかしら

……生きてる人間を
生きたまま直すって
難しいのよねえ



……そうだ

私は
あの時



布都から奪った
布都御魂剣で……



なんで……
私生きて



あんな
鈍い剣で
しかも女の力で
衣服を突き破って
致命傷だなんて
無理がありますわ

……殺してよ

太子様は我が主
主が悲しむことは
できません

死にたいのよ!

どうして
助けたのよ……!

死にたいだなんて
そんなに軽々しく
言っっては
いけませんわ

太子様も
布都姫も私も
死ぬ気で生きようと
した人間——

あなた達とは
違う!

私は生きて
いるつもりで
生きてすら
いなかった!

あの時の私なら
できたのに……!

私をしらふに
してしまった責任
とってよ……!





んっ……

そんな悲しいこと
いわないで

太子様はあの時
倒れた貴方を
本当に心配されて
……こう

ずっと手を
握っていらしたの
ですよ



あなたは
選ばれずとも
愛されて……



選ばれなかったから
だけじゃない

そのように私を
想ってください
太子様の前で
私は不貞を働いて
しまったのよ

いやん



私の唇は
太子様に捧げる
ためにあるの！

それを別の
人間と……

情を込めた
口づけなどと……っ！



わたしね

こうして仙薬を
練っている時が
一番落ち着くんです



よかったら
どうですか？

気が紛れますよ



難

カッ
カッ
カッ

ゴトッ

カッ

まおま

ゴッ

ゴッ

ナホホー



太子様と
布都？

ええ



気長に
やるのが
大事
そういえばあのお二人も
こういう作業は不得手で
いらっしやいました



力の加減が
難しかったようで



太子様は
ゆっくり時間の
取れない方でしたし

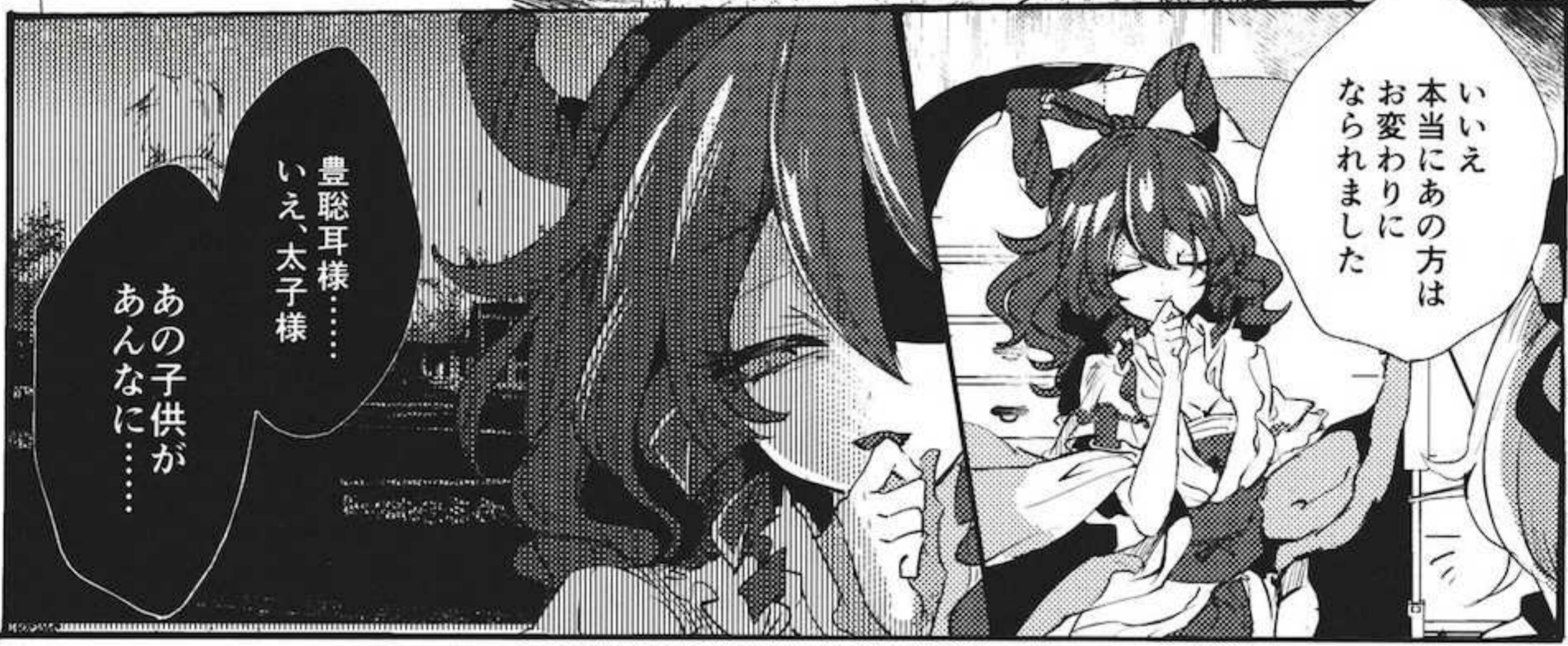
布都姫様は
何というか
……その



いえいえそんな
あなたほどでは

……

青娥は私の知らない
太子様や布都を
よく知ってるのね



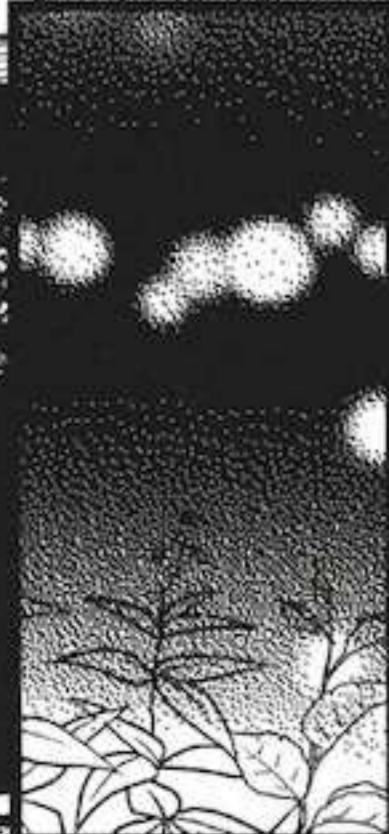
せめてもの慰めには
なるかも
しれませんから



.....

……私が
太子様に
初めて
会ったのは

まだ十にも
届かぬ
頃だった





……うん

よく粉に
なってる



そしたら布都が
遣随使ごっことか言って
お庭の池に大きな舟を
浮かべてね

太子様に
たいそう
叱られて……



……
話し込んで
しまったわ

ふふ
宜しいの
ですよ

刀自古郎女様は
お二人のことが
大好きなのですわ



……
刀自古郎女様？

……刀自古で
いいわ

様も
いらぬ

……ふふ

何よ！



少しでも
気が楽になら
なかったら

それにこれなら
いい仙薬が
できそうね

何の薬の材料？



仙丹

尸解仙と
なる薬

ですよ



!

申し訳
ございませぬ!

斗

事は独り
断むべからず

独善必ずしも
善ならず

勝手に私のことを
どこまで刀古に
話してしまったか
知りませんが……

これがその
結果です

頭を
あげなさい

布都

君は自分が
何をしてしまったか
分かっているのですか？

……返す言葉も
ございませぬ

何も言わなかった
私も悪かった

だが君の行動は
僭越と言うにも
余りある！

青娥が助けなければ
危うく刀自古は！

我はただただ
あの娘が……

刀自古が
不憫で……

……
私にも
考えというものが
あるのですよ

！
私の戸解を
返上なされ
ますか？


……
布都

わかっております
太子様が選ばれた
膳美郎女様は
とても独りでは……

そういう意味でも
そういう問題でも
ありません


それならば刀自古を
どうか戸解仙にして
やって頂けませぬか！

しかしながら
敢えて
申し上げます！

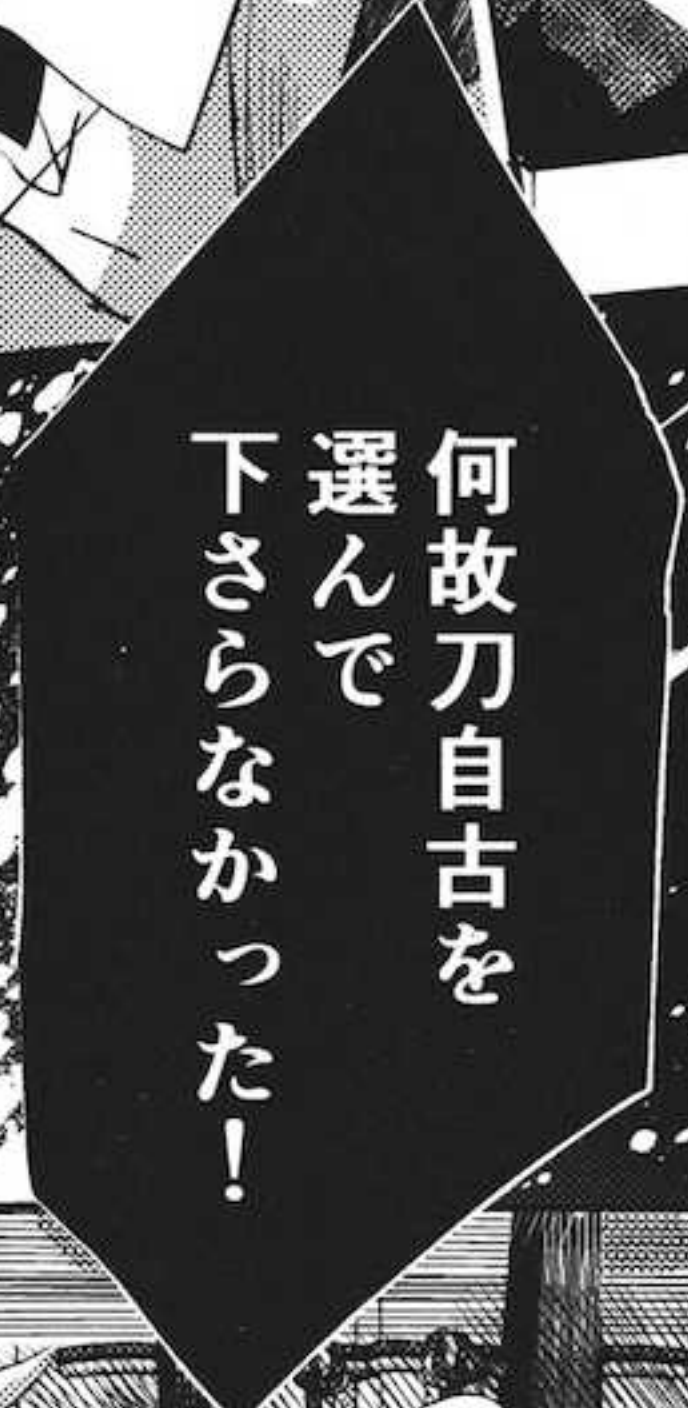


あの娘もまた
太子様がいなければ
生きていけない者！

太子様とて本心は
刀自古を求めて
いらっしやる！



それなのに
何故……！！



何故刀自古を
選んで
下さらなかった！



……

……布都

五十年の君の生き様を
知っています

生き汚さと
いってもいい

ひん



だがここに来て
君は自らを犠牲に
刀自古を救えと言う

何故と
尋ねたいのは
私の方です

……っ

どうあれ我が恩人が
尸解仙となるのを
今更阻む道理もなし

共に修行した
者が居ないのも
復活した際に不都合

布都には尸解仙に
なってもらいます



わかりませぬ……

我には
太子様の御心が
分かりませぬ

いったい太子様は
何を考えたか
というのですか？

布都めには教えて
くださらぬのですか？

昨日の今日で
君の口の堅さを
信用しろと？

布都

君はこのところ
少しおかしい

何故そこまで
刀自古に執着
するのです

……刀自古は

この布都の
娘です

血は繋がらずとも
あの娘の人生は
我が生き写し

どうして同情せずに
いられますようか

一体誰が狂わずに
人を愛することが
できましようか……！



……布都

太子様

……お待ちを

ガッ



……刀自古

刀自古!?

ガッ

昨晚の件で
申し上げたい
事がございます

許可無しの
参内
お許し下さい



なぜ
ここに……

体は大丈夫か!
傷は!

ここで二人が
話していると
青娥から聞きました

ガッ



すまぬ……

すまぬ
刀自古



布都

私は
大丈夫
だから



太子様
布都を
お許し下さい



いま私にできる
一番のことは
皆を安らかに見送ること

それこそが
太子様にできる
最後のはなむけだと



……私
決めました



君が言うのなら
私は口を挟めまい

……だが



青娥と話し合って
励まされて

今はそう
思っています



尸解仙の薬をつくる
手伝いを申し出たら
青娥は快く
引き受けてくれました

なっ！

……！
青娥のもとで？！



しかし刀自古
彼女には
油断ならぬ所が

ええ
わかっています

青娥が信用できないのならば
尚の事私が監視するべきです

……そうでしょう？

む……

色々
あったけれど……
今はもう後悔
していません

だからせめて
残された日々だけでも
今までと同じように
過ごしましょう

だって
家族ですもの

え……
ええ

びゅん

ごじいお……

ふん

ごめん
ごめん
ごめん

ぞの「まじ」が……！

まじとなら
われはもう死んでも
かまわぬうううう

本末転倒
だろうが！

はは……

ゆるやかに
月日は
流れていった

太子様と布都は
引き続き
政務をこなす

身边を整理して
いく傍らで
修行と復活の
計画を進めて
いった

私は青娥と共に
仙丹を練り

その傍らで
少しづつ道教を
学んでいった

これなに？
油？薬？

トリカブト

飲んだり
触ったりしたら
あっという間に
死ぬわよ♡

ふたりの姿を
みつめながら

!?



そういえば
こんな事も
あった

女体化あ!?

ちよ……
太子様を女にするって
どういうことよ!?

え、
だってそっちの方が
意外性あるじゃない

それに女にしても
美形な顔つきだし
楽しそうだし
初めて会った時から
やってみたかったもん

趣味に
走んな!



大丈夫大丈夫
男でも女でも
太子様の本質は
変わらないわ



うふふ
でも復活後に膳美郎女様と
いちゃつかれるのは
貴方も望まないでしょう?



それにしたって
この胡散臭さ

虚とも真とも
つかぬ物言い

こんな
つけちやい
ましたー♪

うっ

太子様も布都も
青娥を信頼
しないわけだ

布都姫は……
生前と似た肉体

面倒ね……

るん

るん



布都!



お主に病が
移つては
ならん

まて
触れるな



おう
よく来たな
刀自古

よくきたじゃ
ないわよ!
いま薬を……



……いよいよか

……仙葉は
明日にでも
完成するそうよ

何もなければ
予定通り
明後日に

ふむ……

あとは太子様の前に
我と膳美郎女が服薬して
試すしかない……か

青娥に怪しい素振りは
多分なかったと思う

……髪貸して
一旦梳くから

カカカ

おう
すまぬのう！

まあ今さら我らの
尸解を妨げる理由など
奴にはあるまいよ

自然な死に
見せかけたのか

尸解仙となる
三人には
死の呪いが
かけられていた

その中でも
永年の無理が
祟ったのか
布都が一番
衰弱が激しい

……いや

私の前では
気丈だっただけで

これが本来の
布都の姿なのかも
しれない



それにしても布都
あなた香を炊き染める
趣味なんてあったの？

あなたの髪もこの部屋も
何だかいい匂いがするわ

……でも
どこかで
嗅いだような

おお
この事か

……刀自古よ
膳美郎女と
会ったか？

……？
いいえ

あれ以来太子様から
会うのは
止められてるの



……あれも
変わった娘よ

あの娘と先日
会ったのだがな

香か何かはわからんが
纏う匂いがきつくて
すっかり服や髪にまで
移ってしもうた

……あ！

太子様が時々
つけて帰る
匂いだ



まあ臭いわけでは
ないからよいか

むしろ自ら香を焚く
手間と金が省けると
いうものじゃ

ほおれおぬしも
好きなので
持って行けえ

暴れんなー！

……しかし
あの娘
どこかで……

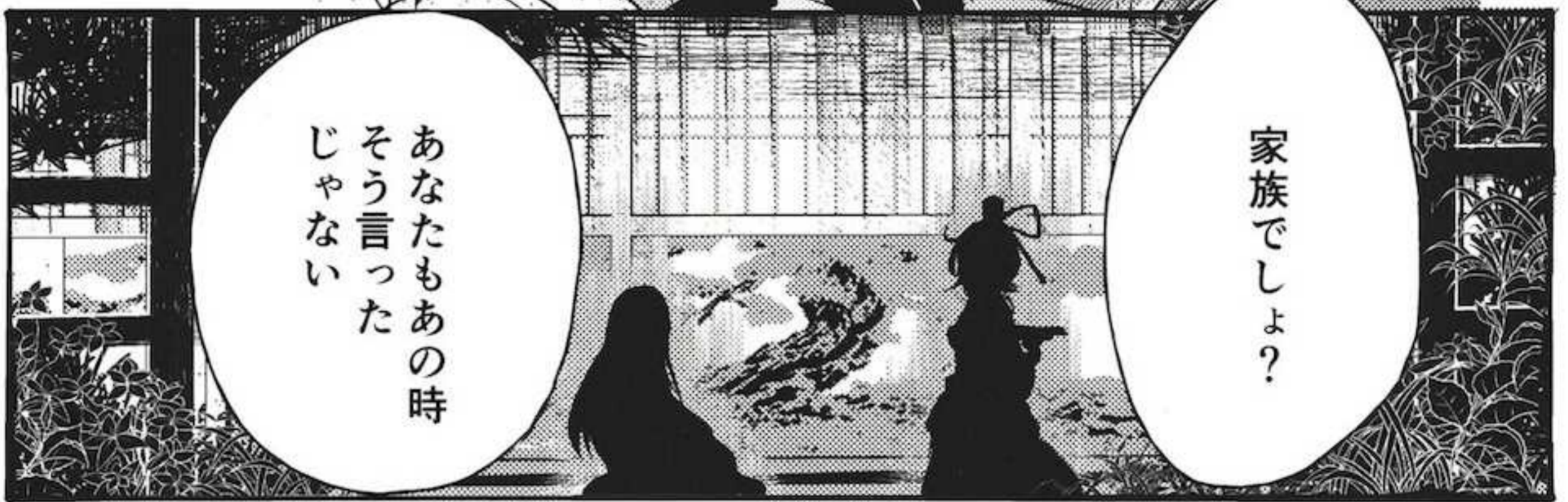
……



お主にとって
我は……

……刀自古

物部布都とは
何者だったのだろうか



家族でしょ？

あなたもあの時
そう言った
じゃない



……っ

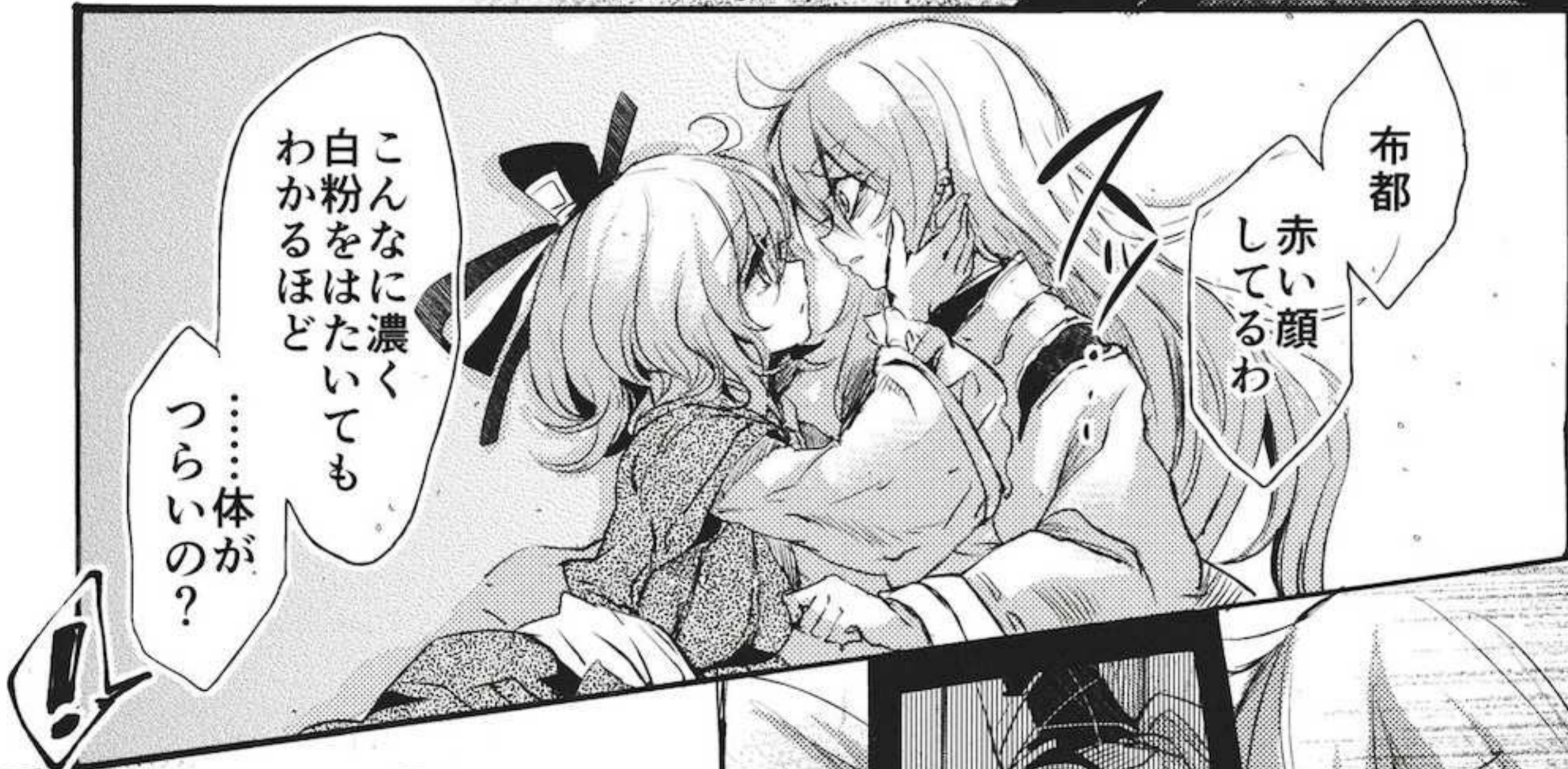
……そうだな

そうで
あった

……もう
いくわね

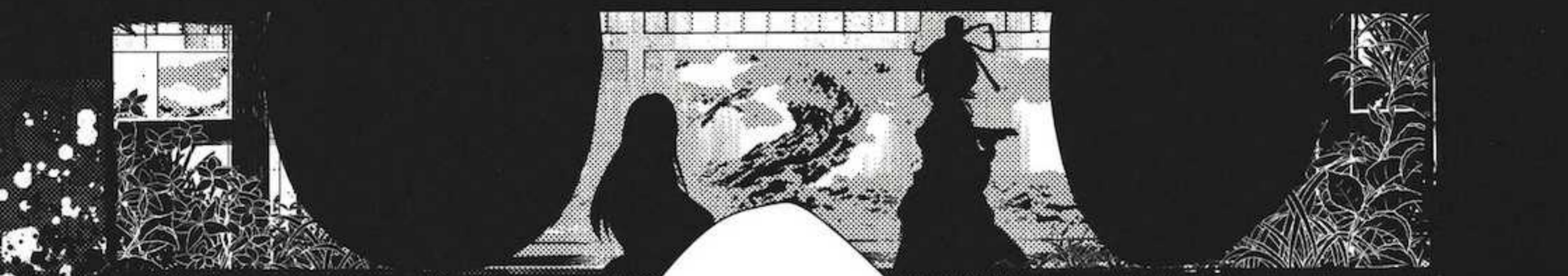
待て！
刀自古

まだ……





さらばだ
娘よ



これで……
よかったんだよね？

蘇我の
語らば
自古は

MC



……本当に明日
お発ちになられる
のですか？

言ったでしょう

どうしても外せない
先約があるんです

布都たちが仮初めに
死したのを見届けたら
私も後を追います

もう戻って
くることは
ありません

……では
これが私達にとっては
最後の夜なのです

……
刀自古

よく
聞いてください
刀自古

この先何があろうと
私達の縁(えにし)の糸は
決して切れません

だから私を
信じてください

例え誰が何と言おうと
私たちは連理の夫婦

揺らぐことなど
決してないと



...太子様

何か隠して
いらっしやい
ますね

!



—すまない

私の耳が聴こえていれば
君をこんな目に合わせる
ことなど無かったのに



青娥？
布都？

誰が何を
言うとい
うのです



信じろなんて
哀しいこと
言わないで

私は貴方の
言葉が全て

その言葉で私は
貞淑な妻にも
愚直な恋の盲にも
悪鬼怨霊にも
なりましょう

ただ
私を何者にもしてくれない
無言がつらくて

刀自古っ...



心残りが
あれば

来世また
逢える気が
するから

その時はもう一度
私の最初に――

今度こそ
私の最後に――

約束です……



斑鳩宮

はあ……

三千世界は
眼の前に尽きぬ

んく

十二因縁は

心の裏に
空し

あ

んああ

は……

たいしさま

あはっ

あっ

あああ！



だーれだ

あああ……
……うっ?

あああ

!

あらあら
可哀想に

太子様が
居られないから
独りで慰めて
いたのね

あ

あああ
たいしさま

あした
あしたくる

約束した

そう
最後の夜は
刀自郎女ではなく
貴方がお供する

ナツメ

さいごって
なんだ……?

うふ

貴方は
死ぬの

——なにか
望みごとは
ある?

!

ぜんぶ
終わったら
お外で芹を
摘みましょ

おかあさんが
病気なの

ふふ……
かわいい

おわりと
いうものが
分からないのね

ふふふ

ちがうの

終わらないよ
太子さま
言ったもの

一緒のお墓に
入ろうねって

ずっとずーっと
一緒だからねって

あのお墓は
素敵なおとろよ

ひんやりと冷たくて
ぼんやりと薄暗くて
時さえも孤独の余り
歩みを止めて
しまいそうな――

えへ

すてき

素敵なおはか？

おはか

すてきな
すてきな
お墓

すてきな
お墓で
暮らしましょ！

永遠に——

貴方の復讐は
間もなく完結する

収穫の
季節よ

熟れるほど
甘くなる
果実のように

貴方は
壊れるほど
美しくなった

今までよく
頑張ったわね
膳美郎女——

いいえ

ものべのみやこのいらつめ
物部宮古郎女

Toho project fan book

【蘇我屠自古は語らない -奇の章-】

発行:Carcharias(cis/N)

<http://patitcarol.xxxxxxxx.jp/>

初版:2012.12.30 コミックマーケット83

印刷:あかつき印刷 さま

原作…【上海アリス幻楽団】 東方神霊廟 /ZUN

ご意見:ご感想お待ちしております。

cis(heavy_snaker@hotmail.com) Twitter(@cis_EX)

本書の無断転載、アップロード等はおやめ下さい。

またまたはじめまして、もしくはお久しぶりです。「蘇我屠自古は語らない」シリーズ三作目、「奇の章」をお手に取ってくださり、有難うございます。少しでも楽しんで頂けたら幸いです。

やっと太子様のご尊顔が登場、ついでに膳ちゃん(こう呼んでいる)も登場、布都ちゃん通常営業、刀自古ちゃんは何やら悟ってしまいました。多分すぐにぼろが出る。

前回のあとがきで「次巻からは太子様出ます」と言っただけなのですが、

中々かっこいい所は見せられませんでした(すみません)。きっと最終巻でやってくださる筈です。筈。

今回は個人的に「凧いだ」ストーリーでした。大きな波乱はありません。前哨戦です。次巻という嵐の前の。というわけで表紙も前回より大人しめに、しっとりもちもちを狙ってみました。

と、その前に前回「荒の章」でこっそり仕込んでいたネタを。

- ・刀自古が突いたのは「腹」
- ・今回刀自古が表紙で押さえているのも「腹」
- ・おなかの中に誰もいませんよー

ちなみに今回の表紙ですが、屠自古(刀自古)ちゃんの他にもいろいろな物が隠れていたりします。刀自古のシルエットは「邪仙」、差し色は青と赤で「あの子」…等を意識したつもりだったんですが書いていた途中に消えていった気がします。気のせい。気のせいだと思います。

さて、この蘇我ないシリーズも残す所あと僅かとなりました。次巻で完結です。つまりは例大祭です。クライマックスは続くよどこまでも。でも時間は続きませんよ15分後です。(締め切りが)

最後になりましたが、今回から蘇我ないのブレーンとして様々な知識やネタご提供、資料作成、ならびに推敲や相談までを快く引き受けてくださった「お前らの愛で字数制限超えた」の北雪さん、この場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

ではでは、最終巻「幸の章」でお会いできる事を祈りまして。





Carcharias